



かさおか



ご入学おめでとう!

笠岡市立笠岡小学校

《校訓》「敬いあう」「助け合う」「励みあう」

☆校長 徳山功一 先生 ☆教頭 佐藤朗弘 先生(転任)



4月8日に28名の笠小っ子が入学しました。みなさんよろしくお祈りします。



1組担任 藤井幸子 先生



笠岡市立笠岡西中学校

《校訓》「聡明」「誠実」「忍耐」

☆校長 蛭田 享 先生

☆教頭 鳥岡純三 先生

☆1A担任 成石祐一 先生

☆1B担任 高田玲子 先生

2年生男子 34名

女子 30名

3年生男子 34名

女子 32名

全校生徒 192名



4月9日に体育館で入学式が行われ、新1年生62名(男子31名・女子31名)が中学校生活の第一歩を踏み出しました。勉強や部活に、しっかり頑張ってください。

新入生代表 誓いの言葉

5月の行事予定



- 5月12日(水) 18:30～
令和3年第3回総務部会を予定
- 5月23日(日) 10:00～
令和3年第3回役員会を予定
- 6月6日(日) 9時30分～
3年度総会を予定 (中央公民館)
- ※新型コロナの影響で日程が変更する場合があります。

『笠岡地区まちづくり協議会』

事務所：笠岡市笠岡2627番地

「井戸会館」内

電話：63-5949

Fax：75-0101

E-mail：zukuri2@mx1.kcv.ne.jp

開館日：月・水・金曜日の

14時～17時まで

「笠岡の地名」その②

(一) 西西の続き

白髪様の上流がゴウヤ(豪谷?)あるいは威徳寺谷と俗称され、台地を形づくる威徳寺の南に天満宮〔天満神社〕別格六造社、於重稲荷、また小太郎山のふもとに、山城稲荷と、このあたりはヤシロが多く、天神の桜樹とともに一幅の風景をかもし出している。

(注)周知のように、稲荷信仰は、京都伏見の稲荷神社が本源とされている。語源は稲生(いねなり)の約と、イナニの転との両説があつて決しがたい(民俗学辞典)、祭神はウカノミタマ(倉稲魂、宇賀之御魂)、神代記によれば「保食神(宇賀魂)実すでに死んで…腹中から稲生れり」とある。女神。朱木の稲荷鳥居や神の使のキツネ(ミサギ、オサキ)はなじみ深いものがある。

※六造は、先に六道稲荷といていた。六道とは衆生輪廻の六つの道途(仏説)、初め六道新田(西ノ浜)東南端にあつたが(天保年中できる?吉浜村氏子)明治十七年の津波で堤防決壊し移転。

※記録によると、明治17年8月25日の夜半から26日未明にかけて、台風による強風と高潮のため近隣の沿岸部で大きな被害があつた。

干拓地の西ノ浜について略記してみよう。

この地名は西町(西本町)の浜という意味も含まれ(つまりその南裏)、石橋町(東本町)の南裏を東ノ浜(住吉町)というのに対してそう呼ばれた。六道新田より早くできた。東側の朝倉新開の北から埋めて行った。

まず江戸初期、上納米の倉庫、亀川屋の蔵元の西側が埋められた。線路近くに蛭子神社があつたが(水田自転車店前)これは文化十年勧請したという。埋め立て後のヤシロである。いい伝えによると朝倉〔朝倉〕稲荷まで埋めたのは天保五年となっている。

蔵元の西方(中波止〔破止〕場)に浜会所ができたのが寛政六年。だいたい称念寺の対岸から東へ曲がった突堤に沿って新開地ができたのだが、今の防波堤以北千二百六十坪は大正九年三月、岡山市の山下忠四郎氏(関藤謙治氏の兄)の手により住宅地となった。

関藤氏宅前(五九一三)に蛭子神社=昭和六年、信者五人組。

～次号に続く～

【資料提供】笠岡史談「笠岡の地名」広沢澄郎氏



編集後記

桜も散り、ピカピカのランドセルを背負った新一年生が元気よく登校しています。

「おはよう!」「気を付けてね!」と声掛けや見守りのご協力をお願いします。 I・M

★ 総会のお知らせ ★

6月6日(日)午前9時30分から笠岡市中央公民館4階集会室で開催の予定です。

委員の方へは、後日ご案内いたします。※新型コロナの影響で日程が変更する場合があります。

